



精神障害のある人の居場所～就労支援事業所

くらし工房けいはんの通所者の声を書かれた付箋を貼ったボードを手に説明する太田さん。「仕事や社会に慣れていくための大切な場所や落ちつく場所、友達づくり、人との付き合いの場所などが書かれています。また、通所者同士が、ここで知り合い、仲良くなる人もいます」精神障害のある人をどう理解したらいいのかを聞いてみますと「まだまだ偏見があると感じています。それは、精神障害のある人のことを、よく知らないから起こっているように思えます。触れ合うこと、交流を持つことで理解が深まると思います。病状が悪いときだけを見て、決めつけないでほしいのです。そうではない時は、皆さんと同じ生活をしていま



くらし工房けいはん 太田恵美さん

「くらし工房けいはん」は、就労を希望する精神障害のある人に、生産活動の機会を提供する就労支援事業所です。働くために必要な知識、技術、自信や意欲を付けたい人が通所し、就労支援を行うことを目的としています。

事業内容は、喫茶、製菓・雑貨作り・軽作業などです。

みんなちがって みんないい



チューリップは、いろいろな色の花があります。違っていても、みんな美しいです。人も同じです。全てのは、一人一人に違いがあります。人はみんな、違い＝「個性」があるからこそ尊いのです。

守口地区人権擁護委員会

あなたの街の相談パートナー

人権擁護委員制度は、人権尊重の考えを広め、地域の中で人権が侵害されないように配慮して、人権を擁護していくことが望ましいという考えから設けられました。

市では11人が法務大臣から委嘱を受けて活動しています。自宅や市役所での人権相談や人権教室を小学校などで行っていきます。

人権相談 予約不要
 時 毎週月・水・金曜日9:00～12:00
 毎週木曜日13:00～16:00
 (いずれも祝日・年末年始は休み)
 場 市役所5階南エリア相談室507

Nguyen Thi Kim Hueさん(ベトナム)

日本語で語り合おう

TEANG CHANNYさんと
 NIVATHちゃん(カンボジア)

「仕事の研修で日本に来ています。日本の文化が好きです。茶道、剣道を見ましたし、祇園祭り、津嶋部神社のお祭りにもでかけました。ビザの手続きや、法律が難しいですが、日本の皆さんは親切です。友達もたくさんできました」



「夫が日本で仕事をしているので、今年3月に息子とカンボジアから来ました。日本語をもっと話せるようにと国際交流センターに通っています。夫も日本語を教えてください。日本の良いところは、買い物や交通など生活が便利なことです」

日本人ボランティアに聞くと「外国人と接する機会を持ちたいと参加しています。勉強になりますね」異文化に触れることで知らないその国の人、風土、文化を知る機会になり、いろいろと勉強になります」皆さんの真剣な学ぶ姿勢に励まされ、元気をもらっている」などの声があり、国際交流の場にもなっています。

AKV25 お・も・て・な・し

笑顔で道案内

大勢の人が行き来するJR関西空港駅改札前で立ち止まり、切符をどう通したらいいか戸惑っている外国人旅行者に、大阪国際大学の学生ボランティア【AKV25】が積極的に声をかけ、不安の解消に一役買っています。

【AKV25】とは
 A=アシスト・助ける
 K=関西国際空港
 V=ボランティア
 25=25人の学生



の頭文字を取り、2年前から取り組んでいます。



気持ちを込めて



大阪国際大学 国際教養学部3年生 木村花林さん

毎週参加しています。はじめて日本を訪れる外国人も多いので、丁寧に分かりやすいように心がけ、案内をしています。「ありがとうございます」と言われるとうれしく、やりがいを感じます。

学生は、参加しながら、語学や電車の乗り換えなどを勉強し、体験を重ねることで、少しずつ会話に自信が持てるようになりました。